

多謝

私は今、大阪での出張を終え、N700系新幹線の車中です。東京まで二時間半あまりの旅。江戸のころではどれくらい時間を要するのでしょうか。最新鋭の新幹線に乗って、ノートパソコンを開いてと、文明の利器に頼りきりの態勢で、守邦先生の『東海道名所記』演習の授業のことなど思いついておられます。

振り返ってみると、私の実践女子大で学んだ年月は、大学一年の必修、三年の選択科目、四年の卒業論文、大学院に進んでからの修士論文への御指導と、「守邦先生純粹培養」ともいえるものでした。毎回授業で行われる小テスト、テキストの『編集ハンドブック』、テストに出題された「おじゃる丸」、『鎌倉物語』の授業中に皆で食べた「鳩サブレ」（この後キャラクターとして度々小テストに出現し

小松 亜希子

ておりました）、引率していただいた下町散策、ゼミ合宿、七夕古書展会、学会、飲み会等々、学籍を離れてから何年も経っているのに昨日のことにように思い出されます。

守邦先生との思い出を振り返れば尽きませんが、過ぎ去ってしまった出来事ではなく、今現在も先生が私たち卒業生に機会を与えて下さる行事があります。それは「追い出しコンパ」です。

「追い出しコンパ」は年に一回、次年度先生のゼミに入る三年生が幹事となって、四年生の卒論の口頭試問の日に行われるパーティです。「追い出し」と言っても、「四年生、大学卒業だね、さよなら、バイバイ」というよりは、「四年生、無事に卒業出来て良かったね。これからOGの仲間入り、ようこそ」といった趣の会で、OGたちは四年生の

労を讃えつつも、同期や前後の代と旧交を温めることができます。

何も追出ししコンパに参加しなくとも、ゼミ仲間と会う機会を作ることにはできますが、毎年一月下旬から二月初旬にかけては他の予定を入れぬよう心積もりをしています。それは皆で先生の元気なお顔を拝見し、ウィットに富んだお話を伺いたいがためなのです。

例年参加人数は六十名前後。先生が実践女子大にいらしてから十九年、合計約百八十名余のゼミ生を排出していることになるかと思いますが、就職、結婚、出産など、女性として人生が変わる時期の人々が、このように毎年賑々しく参加するというのは、偏に先生の人柄によるだと、私は思います。

世代を超えた年一回の「同窓会」は、卒論の時のウラミツラミを交えての四年生へのはなむけの言葉に始まり、「これから社会人としての門出を祝う」場、幹事をやってくれている三年生への「卒論、就職相談」、はたまた「先輩ママの育児相談」の場と変化し、あちらこちらのテーブルで学年関係なく色々な世界が繰り広げられています。そのテーブルを一つ一つ先生が笑顔で回りながら、歴代の教え子たちのおしゃべりにお付き合いくださいます。この気さくなお人柄こそ、卒業生たちが「渡邊教授」と呼ばず、

お名前で呼んでしまう由縁なのかもしれません。

先日、ゼミの後輩から守邦先生が大学院生の研究発表会で講演をなさるといふメールをもらいました（追出ししコンパでの交流があるからこそ、後輩からこのような連絡も受け取れるのです）。久々に先生の「講義」が受けたくなり、休暇を取って駆けつけました（表紙の裏反古のお話、本当に懐かしゅうございました）。

研究発表会後の懇親会でのこと。御退職後の追出ししコンパの行方について語らう私たちに、

「私のことはもう探さないでください。」とおっしゃった先生。追い出す四年生がいなくなる以上ゼミ会は凍結、とのお言葉でした。

でも、先生。あきらめていただきます。

日本全国にとどまらず、私が存じ上げているだけでも数カ国に先生のかわいい教え子があります。先生がどこに雲隠れなさろうとも、「OG連絡網」を駆使し、必ず見つけてみせますから。追出ししコンパには先生の笑顔がなければお話になりません。

最後に、守邦先生に御指導賜った学生のひとりとしたしまして、心より感謝申し上げます。そして私たちがさっそうと歩く先生の後ろ姿をいつまでも追いつけていられる

よう、今後も変わらぬ御活躍をお祈り申しあげます。

そして、(しつこいようですが)年に一回は元気な姿を
拝見したく思っております。

(こまつ あきこ・平成十二年度本学大学院修士課程修了)